

3-16. 南大東村教育委員会（沖縄県南大東村）

(1) アドバイザー派遣申請の背景

●地域の概要

【人口】 1,285人、世帯数665戸（平成28年1月31日現在）

【地勢・面積】

沖縄本島の東方海上約360km、北緯25度50分47秒東経131度14分23秒に位置し、北に8km隔てる北大東島と相対し大東諸島と呼ばれています。島は、標準的珊瑚環礁が隆起し、東西5.78km、南北6.54km短楕円形で海岸線から内側に環状に露出した岩石地帯で砂浜は無い。島全体は、二重三重に防風林が設置され耕作地を囲み、山は無く、島は平坦で一番高い所でも78mで、島の各所には鍾乳洞が点在し、中央部には47haある大池を中心に自然の池が散在している。島の総面積は30.57k㎡でその6割が農耕地となっている。

【気候、自然】

気候は、典型的な亜熱帯海洋性気候で年間平均気温は23.4度と割合温暖で冬季は北東季節風が、夏季は南東季節風が吹き気候は完全に区分されます。年間降水量は1500mm内外で沖縄本島や宮古島等に比べ少ない。夏から秋にかけての台風シーズンには島民は天気予報に耳を傾け一喜一憂していません。

南大東島は動いている、約4800年前にフィリピンプレートの上に出来た火山島が、隆起を繰り返しながら今でも年間5cm～8cm移動しています。そんな南大東島の自然は大地の下には多くの鍾乳洞やドリネが出来、そこにカルスト地形による日本最大と言ってもいい湖沼群があります。又、ダイトウオオコウモリ（国指定天然記念物）を中心として、ダイトウヒメハルゼミ、ダイトウビロウ、国指定天然記念物で島の中央にある大池のオヒルギ群落、東海岸植物群落のボロジノニシキ草など動植物は独自の進化をとげた種が多く存在しています。

【歴史】

島は、明治18年に沖縄県の探検により日本国標が建てられた。島は無人島で、明治33年（西暦1900年）に八丈島出身の23名の方々によって開拓が始まり、今年で開拓115年を迎えた歴史の浅い島である。開拓後は、製糖会社が経営する島として希少な歴史を歩んできました。玉置、東洋、日糖と島の経営権は変わりましたが、八丈島、沖縄各地から移住してきた人々が開拓精神を胸に島の歴史を積み重ね、豊かな自然、人情とともに、現在でも基幹産業であるサトウキビ農業を中心に、甘味資源の供給基地として栄え今日に至っています。戦後は、村政が施行され現在の南大東村が誕生しました。

文化は、沖縄県内でも特異なもので、開拓者が中心となった八丈文化、大和文化が沖縄文化とチャンプルーになり開拓100年の社会環境の中で熟成され、大東文化というべき独自の文化が生み出された。

【観光】

開拓100周年の西暦2000年頃から19名乗りの飛行機から39名乗りの飛行機に変更されたころから徐々に、島外からの観光客が増え始めた。平成12年には天然記念物活用事業において「島まるごとミュージアム構想」を立案し、島の自然保護と特異な自然、文化を活かしたエコツアーの構築等、観光振興を進めようと幾つかの試みを行ってきた。

特に、10年程前からは「島まるごとミュージアム」をコンセプトとしてエコツーリズムを推進し、祭り体験、コウモリ観察ツアーなどのプログラムを作り、島の基幹産業であるサトウキビ農業に加え、新たな産業構築の為、観光を推進していくため、村が中心となって宿泊業者、観光関係の業者を中心に、平成24年には観光推進協議会を立ち上げ、平成26年には観光協会も設立し、村全体で観光を推進する体制を整えて、食のカレンダーを活用した大東御膳のモニターツアー、鍾乳洞の整備、シュガートレイン復活事業計画など新たな試みも進んでいる。

【地域資源の概要】

島の資源は、「島まるごとミュージアム」構想の際に、宝探しを行い、多くの地域資源を再発見出来ました。次に掲げる資源はごく一部です。

自然資源・・・海、台風、鍾乳洞、ダイトウオオコウモリ、大池を中心とした湖沼群、植物群落、その他固有の動植物

産業遺産・・・旧ボイラー小屋（日本近代遺産登録）シュガートレイン、神社、開拓碑等

文化遺産・・・大東太鼓・大東鮎を中心とした食文化、海の中のプール・ラム酒

最後に最も大切な資源は、人です。大東島の人達は、開拓精神を胸にこれまでいくつかの試練や苦労を重ねて、この島を作り上げて決しました。しかし、その歴史は浅く100年前後であり、これから改めて歴史を作り上げていく段階の島です。

●アドバイザー派遣申請の背景・これまでの取り組み

南大東島は、これまで「島まるごとミュージアム」をコンセプトに、エコツーリズムを推進しながら、基幹産業であるサトウキビ農業に加え、新たな産業として観光産業を推進、発展させるため、平成24年度に観光推進協議会を設立した。また、観光と地域活性を図るアイテムとして平成26年には、「南大東食のカレンダー」も完成した。それに伴い、食のカレンダーを活用し、観光客に対して島でしか味わえない南大東御膳などを食べてもらうモニターツアーなども実施した。また、平成25年度に活用させて頂いたアドバイザー事業での提言により、島を訪れる観光客はマスのなものから個人的な観光に変化して行くだろうという共通理解が出来た。同時に、南大東島の食文化の大切さも再認識出来、地産地消という認識も強まった。最近では、地元野菜を利用した学校給食のメニュー作り、島内小売店での地元野菜の販売なども行われるようになってきている。

また、平成26年には観光協会が中心となって観光推進計画も策定し、基本戦略として「エコツーリズム推進」を第1に掲げて、観光推進を行っていくことが示された。

しかし、課題として、南大東島は、これまで特有な自然、歴史、文化などを中心として、マスの観光で、大手旅行社等と提携したメニューを提供する観光が主で、観光がこれから新たな産業として成り立っていくためにはなにが必要かということで自然、文化、歴史を凝縮できる食に注目をした。しかし、マスの観光が中心だけに、今後は増えると考えられる個人観光客への対応等も含めて、島で今後の食の新たな開発、それを案内するガイドの知識、運営力などが大きな課題となっている。

以上のような課題等をクリアするためには、エコツーリズムの基本である地域密着型観光は大変重要になってくると考えている。また、国は、地方に対して地域創生のため新たな特色ある取組を行うよう促している。そこで、今回のエコツーリズム推進アドバイザー派遣を活用させて頂き、今後の観光の発展と地域活性化を図るため、特色ある取組として「食のカレンダー」等など島の資源を活用し、発展的な展開と方向性を示したい。

また、特色ある観光メニュー、特産品などのコンセプトを確立して、地域ブランド開発のヒントとしたい。

活動状況の写真



料理講習会



完成した大東御膳



文化の体験ツアー（祭り体験ツアー）
黒い半被着用の方が、観光客
その年の9月22日23日に行われる
豊年祭へ参加するツアー



関係者を招いて
3か月に1回開かれる
新たなメニュー作りの試食会の様子



子ども達による体験事業



サトウキビ刈と黒糖作り

(2) アドバイザー派遣の実施概要

日	時	平成 28 年 2 月 18 日（木）～平成 28 年 2 月 21 日（日）
場	所	沖縄県南大東村
アドバイザー		北海道大学 国際広報メディア観光学高等研究センター 特任教授 真板 昭夫氏
参加者		計 28 名
スケジュール・方法		<p>【1 日目】村の取組等のヒアリング</p> <p>【2 日目】南大東村担当者と現状について確認、南大東村観光協会との会議及びアドバイス、南大東村商工会の取組と担当者へのアドバイス、意見交換、視察（シュガートレイン復活予定地、西港ボイラー小屋復活予定地、星野洞（鍾乳洞）、南大東漁港及び漁業組合）</p> <p>【3 日目】視察（天然の海岸プール、バリバリ岩、特別鳥獣保護区の大池を中心とした自然資源の視察、文化遺産の神社、島まるごと館（ビジターセンター）、展望台など観光施設等）、生活改善グループの活動状況、食のフェノロジーカレンダーについての説明、役員とこれまでの活用方法、現状、そしてこれからの活用方法についてアドバイス等、意見交換</p>

(3) アドバイスの内容（議事録）

1) 役場・観光協会

- ・ 年間を通して、村内外のイベントに参加して観光PRを行ったが未だ南大東島を知っている人が少ない。
- ・ 食のフェノロジーカレンダーを参考に、大東御膳を開発し、150 食のモニターを実施し島の食文化を語る上での雰囲気作りは出来た。
- ・ 3 年後には、産業遺産であるシュガートレインを復活し運行する予定である。
- ・ 島の特産品等をどのように販売し、販路拡大を図っていくか。
- ・ 観光スポットの島まるごと館の活用方法、島内でのメニューはあるが、人材不足なのか出来るときと出来ない時がある。
- ・ 飛行機運賃が高くて、訪れて良かったと満足する観光を提供する方法は何か。

<アドバイス>

- ・ 沖縄観光はブームで、観光客は多いが、南大東島のイメージが本島等で表現する場合他の島々と一緒になっているので、何で行く、何を見に行くというPRが足りないのではないか。
- ・ この島には次の3つの特色がある。産業（サトウキビ農業）・自然（海洋島として特徴）・歴史と生活で、一見ありきたりであるが普通と違うのは淡水レンズ(池を中心とした地形)がキーで、そこから生み出された、サトウキビの開拓の歴史、沖縄大和のチャンプルー文

化等の特徴を活かして、キャッチコピーを考えて行く話し合いを行う体制を整えてはどうでしょう。

- ・ シュガートレインの復活は、大変大きなチャンスであり、観光の起爆剤にはなるが、当たり前に乗るだけでなく、そこにいかに付加価値を考えていくことがポイントである。
- ・ エコツーリズム推進協議会を作るのはどうか、そうすると環境省やエコツーリズム協会などが情報を発信してくれるとともに、人材育成、ツアー開発等が行なえる。
- ・ この島では、人材不足でガイドだけで食べていくのはむずかしいと思いますので、副業をすることを考えて人材を確保する方法を行ってはどうでしょうか。
- ・ 魅力を創れば、観光客は来ると思います。魅力の発信、ストーリーを創る、役場に頼らないマネジメント、資源の洗い出し、活用方法など差別化のコンセプトを考えて話し合い、勉強会をやっていくことが必要だと思います。

2) 商工会

- ・ 平成 22 年度からブランディング事業を実施し、次の事業を行っている。
 - 新造船（だいとう）で行く船舶モニターツアー、地域通貨事業、駅伝大会モニターツアー
 - 観光推進を図るため、村長・商工会長が国内の旅行社へ島のPR活動を行ってトップセールス事業を行いました。
- ・ 観光推進計画を作成し、南大東島の観光客を増やし、質を高める作業を行っている。
- ・ 年々観光客は増加傾向ではあるが、消費は低迷が予想され活性化対策が必要である。
- ・ 各旅行業者から要望、指摘
 - 他の地域と比較して目玉になる強みがほしい。
 - 島の一番のポイントは何か、孤島の強みを活かしたアクティビティが重要
 - 離島商品のニーズが増えると今後予想される
 - 価格競争にならない付加価値の高い商品作りが必要、期間限定の食などあればいい。

<アドバイス>

- ・ 旅行業者にトップセールスも良いが、島でこういうツアーやりますので、貴方お客さんつれて来てくれませんかという方が良いと思う。それは、島の人達が関わって作った物なので、島の人間が自慢できるもの、仲間作りから出来た結晶だからです。
- ・ 島のブランドは顔である。ブランドには次の3つのことが必要である
 - 有史・由来性、どうして、歴史
 - 道具立て 地域に由来する材料、技術
 - 場の設定 こういう環境、本家本元の生誕地

以上の条件を満たすとブランドは定着し、ロングセラーになる。

- ・ 商品によって思わせぶり、島に行きたいことを考えさせるプランの戦略を立てる。
- ・ 誘客から商品作りに至るまでの総合的戦略を立てる組織としてDMO（観光まちづくり）を立ち上げてはどうか。たとえば、航空運賃が高いではなく高くても魅力ある商品をマネジメントして行くことが必要ではないか。

3) 食のフェノロジーカレンダーについて

- ・ カレンダーを活用して学校給食の材料を調達している。又、学校での食育の授業にも活用している。
- ・ 漁業関係もこれから活用が必要だが難しいところがある。
 - 観光用のカレンダーではないか。これからどう活用して行くか。

<アドバイス>

- ・ この食のカレンダーは、島の人に向けて作成されたものであり、子ども達へ食文化がサトウキビ農業と結びつき関連していることを学ぶことが出来ると思う。
- ・ 観光の醍醐味は、食事と人であり、この食のカレンダーは、訪れる方に読み取ってもらい、文字に表せない観光のアイテムとして利用できる。
- ・ 季節ごとにメニュー、レシピ集を出して、商工会、観光協会などと連携して新たな商品、特産品も含めて、食の開発も可能ではないでしょうか。
- ・ カレンダーの改良も必要な部分は改良して、学校給食の料理、島の特徴であるチャンプルー文化、歴史がこのカレンダーに表れるようにする。大東島は自慢（PR）が足りないのので、この食のカレンダーが一つのツールになる。

4) 視察時

<アドバイス>

- ・ 西港ボイラー小屋は、シュガートレイン復活に向けて重要なポイントになる。
- ・ 島まるごと館の運営について、もっと活発にできるように関係者同士の連携、話し合いは大切である。
- ・ 大池を中心とした自然の資源は、これからも大切にして活用してほしい。

【記録写真】



ホテルにて打ち合わせ（日程・資料の確認等）



観光協会にてのアドバイス意見交換



商工会にてアドバイス意見交換の様子



生活改善グループ代表との意見交換の様子

視察の様子



島まるごと館（ビジターセンター）
活用の様子



自然資源大池の展望台

(4) アドバイザー派遣実施の効果

1) 参加者や関係者に与えた効果

今回は、全体的な講演ではなく、個々に行っている事業者、関係者に対してアドバイスを頂いた。これまでは、それぞれバラバラに活動し、多くの取組を行ってきましたが、今後は、お互いが共通理解し、村全体、地域全体で取り組むことの大切さを学びました。

- シュガートレインの復活は、地域全体がまとまるいい機会になる。
- 航空運賃が高くても、いい商品、魅力ある商品を作れば観光客は誘客出来る。
- どこにでもある村のPR方法でなく、特徴をどう工夫するかヒントを頂けた。
- 人材育成について、副業という考え方を知ることができ今後の展開に活かしたい。
- 島のブランドは、住んでいる人達が作り出していくということを学んだ。
- 食のカレンダーをツールにして観光客誘致に活かすことが出来る。
- 地域活性化は自分たちの自慢をどれだけ多く見つけていくかが大切である。

2) 今後、期待される効果（具体的な活動の展開など）

現在、村では地域創生として更なる交流人口の増を目指して、幾つかの取組を行う計画を作成中です。その中、これまで行ってきたエコツーリズム推進をさらに進め、発展させて、その理念を具現化して地域活性化に活かしていく予定です。

今回のアドバイザー事業における、貴重なアドバイスは、これまでそれぞれで行ってきた事業の取り組みを見直し、お互いが連携して、話し合いの場を設けるきっかけになることは間違いないと思います。

これまで、本村のエコツーリズムの推進は10年近くになり、それぞれの思いでツアーの開発特産品作りなど行ってきており、エコツーリズム誕生期間としての第1期が終了したと思います。これからは、村の地域活性化のためにもエコツーリズムを発展させ、進化させるために新たなエコツーリズムの推進を考えて行く発展の時期としてとらえたい。

3) 今後の取り組み

役場、観光協会、商工会が中心になりエコツーリズム推進協議会を立ち上げるように連携し、努力して行きたい。シュガートレインの復活事業を好機ととらえて、新たなツアーの開発、特産品開発など地域全体で取り組んで行く体制を整える。また、食のカレンダーをツールとして、地元の農家、子ども達、地域全体を巻き込み、新たな交流人口の増に向けて活用していく。さらに、島のブランド化に向けて、常に話し合える体制を整えて行く。村で現在作成中の地域創生のプロジェクトの中にも、エコツーリズム推進の考え方を取り入れていくよう委員会などで検討していく。

(5) 今後の取組推進にあたり参考となった事項、その他感想

1) 参考となった事項

PRの方法、ふるさと納税について

- ・ 長崎県平戸市は、ふるさと納税が日本一であり、世界遺産登録に向けて、ザビエルがキリスト教を広げた拠点だということを徹底して宣伝している。

マネジメント方法

- ・ 東京都檜原村のふじの森が取り組んでいる、レストランの運営について、島では別の方法でそれを参考に出来ると思った。

ジオパークの考え方

- ・ 北海道室戸岬のジオパーク、町民一人一人がその意味や価値を説明できる体制を作る。本村でも、自分たちの宝を自慢し、差別化のコンセプトの大切さは参考になった。

ラム酒の製造

- ・ 小笠原村が、なぜラム酒なのか、産業、文化が特殊な条件だからこそラム酒であり、本村もなぜラム酒かというブランディングの大切を学ぶことが出来た。

2) その他感想

本村は、体験ツアーなど魅力的な資源を中心として、徐々にではあるが島を訪れる人は増えています。しかし、観光客の殆どは大手旅行業者指導のものであり、これからは体験ツアーを中心に地域密着型に移行する必要性を感じました。

村のPRは、確かに他の地域に比べても不足している部分は多々あり、自分達の自慢できる物を外に向かっていかにアピール出来るか、その戦略やヒントが今回の事業で得られたと思っています。

また、これまで行ってきた食のカレンダーについては、大東御膳や学校給食などに活用され、徐々にではあるが、地産地消の意識が高まり地域活性化の一つのツールとしてさらなる活用を図って行きたい。

最後に、この事業を通して島の人達の認識が高まり、一步一步ではあるが確実に地域づくりの活性化が図られていると思います。今後は、シュガートレインの復活事業を足掛かりにして、エコツーリズム推進協議会の立ち上げに向けて地域全体で取組を行っていく。

(6) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

真板 昭夫氏 (北海道大学 観光学高等研究センター 特任教授)

1) 地域における取組の現状と課題

①現状の取組

エコツーリズムによる宝さがしは、村民の参加でかなり集積されてきている。また1名ではあるがガイド業として活躍している人材も登場し、また宿泊業者でツアーを実施し、実績をあげて来ている。

②課題

宿泊施設の確保、ガイド等の人材の確保、研修は急務である。

2) 特に魅力を感じた地域資源等

①魅力を感じた地域資源

ビロウ群落に代表される珊瑚礁の海洋島の自然環境、サトウキビの歴史に関する建造物や産業遺産、大和と琉球の生活文化

②上記地域資源に魅力を感じた理由

南大東島は、珊瑚礁で出来た地形と淡水レンズの構造と自然資源、サトウキビ開拓 110 年の歴史と産業遺産、琉球文化圏と大和文化圏のチャンプル文化の無形生活文化遺産の 3 大資源の融合によって出来上がった他の離島や地域にはみられない固有性が魅力を感じさせる地域資源といえる。

3) アドバイス（講義等）の概要

昨年度作成したフェノロジー・カレンダーの観光や食育系の活用方法、および今計画されているサトウキビトロッコ列車（シュガートレイン）の活用方法、南大東村のエコツーリズムを通じた観光推進戦略の考え方等について意見交換とアドバイスを行った。また今後南大東村においてどのような DMO を展開すべきかについてその考え方、コンセプトワークについてもアドバイスを行った。

4) エコツーリズム推進全体構想への取組状況・意向について

①全体構想への取組状況について

まだ全体構想については取り組みは無い。

②全体構想策定への意向について

観光協会を中心に観光基本計画にエコツーリズムの推進を掲げており、近々役場との連携において取り組みを開始する意向を持っていた。

③全体構想認定に向けて、今後必要なこと

商工会、観光協会、村役場、教育委員会がまず話し合いの場を持って、今後の推進スケジュール、役割分担を確認することが必要と感じた。

5) 地域に対する印象、今後地域に期待すること（メッセージ）

南大島村の基幹産業はサトウキビであるが、その存在の大きさと村民の依存度と安定性の高さから、観光によるまちづくりについては、なかなか関係者以外その推進に予算を投入することに意義を理解してもらえない現状がある。しかし、キビ産業一本から多様な産業構造への転換による若者定住と人口増加が課題となっていることも事実であり、徐々に観光産業、とりわけエコツーリズムによるまちおこしに、宿泊業や、商工会、婦人会等の間で期待が高まってきていると感じられた。